特別企画

がん登録の流れと、スキルインフォメーションズのがん登録解析ソフトへの取組み

村上 志郎
スキルインフォメーションズ

現在のがん登録には、「全国がん登録」、がん診療拠点病院院内がん登録（以下、「院内がん登録」）、「臓器がん登録」の3種類があります。

最初にスタートしたのは、現在の「全国がん登録」にあたる地域がん登録になります。1951年東北大学の瀬木三雄教授が宮城県を対象として地域がん登録を開始され、1957年に広島市、1958年に長崎市、それぞれ市民を対象とした腫瘍登録が行われ、1962年には愛知県と大阪府でも実施され、罹患率、公衆衛生の向上が目的として始まりました。

地域がん登録は、主に都道府県を主体として運営され医療機関から集められた情報に基づき、がんの実態・治療成績・がん検診の有効性を把握する事でがん対策の企画と評価に役立てられましたが、当初都道府県ごとに収集したためデータ収集、比較が困難な事など地域がん登録の問題点を受けて、新たに始まったのが「全国がん登録」になります。

「全国がん登録」は、日本国内でがんと診断された全ての人のデータを国で1つにまとめて集計・分析・管理する新しい仕組みとして2016年1月から始まりました。この制度の開始により、病院によるがん登録が義務化され、がんと診断された人のデータは都道府県に設置されたがん登録室を通じて収集し、国立がん研究センターが管理するデータベースで一元管理されています。

「院内がん登録」は、2006年にがん対策基本法成立によりがん対策推進基本計画を受けて重点的に取り組む課題として位置付けられて、がん診療拠点病院が設けられました。2007年から標準項目含む61項目のデータを登録する事でスタートし、2016年には72項目に改訂されています。

最後の「臓器がん登録」は、各疾患ごとのがん専門学会等が主体となって臓器別のがんに関するデータを収集したもので、がんの臨床的特長と進行度の正確な把握に基づく適切な病期分類・診断・治療方針等を検討する事を目的に行われています。

その中で弊社とがん登録の関係は、1985年に生存率取扱い規約（日本癌治療学会）が発刊された当時弊社の前身である（BECCEL＝ベクセル社）が、がん専門ドクターより依頼を受けて従来行っていたがん登録のデータベースに生存率計算（グラフ作成機能）・検定機能と集計・一般統計機能を加えて、がん登録解析ソフトとしてパーソナルコンピューター（以下PCと表記）で動作するソフトを開発し販売を開始しました。1987年には各癌の取扱い規約に基づく臓器がん登録解析ソフトを作成してがん専門ドクターの学会発表用資料作成ソフトとして延べ3000名を超える、がん専門ドクターに使用して頂いています。1990年頃にはPCでも「地域がん登録」、学会の「臓器がん登録」も行えるようになり滋賀県・奈良県等の「地域がん登録」のシステム化、乳癌・大腸癌・食道癌の「臓器がん登録」のシステム化のお手伝いをしました。2007年には「院内がん登録」に対応したシステム【PromethusPro】を2016年には「全国がん登録」に対応した【PromethusLite】を販売開始し、登録を効率化するため病院システムを利用したデータ収集・分析が行えるシステムの開発・販売も行っています。また2015年には院内がん登録・全国がん登録の標準項目データを分析解析できるソフト【CanStatR】を開発して病院様独自の分析ができるソフトを販売しています。弊社はこれまで35年間がん登録のソフト開発に携わってきました。これからも、がん登録のニーズや要望を解決し支援するソフトを開発していきます。

製品の詳しい機能は：https://www.sic-cancer.com/を御覧ください。

全国がん登録・院内がん登録・臓器癌解析

https://www.sic-cancer.com/